

平成28年度 「ほっかいどう遺産WAON」 助成活動報告



平成29年1月20日
NPO法人北海道遺産協議会



北海道遺産
Hokkaido Heritage

平成28年度「ほっかいどう遺産WAON」助成先一覧(計15件800万円)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群	内浦湾沿岸地域	北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議(略称:北の縄文道民会議)	北の縄文文化遺跡群の魅力発信事業	1,000,000
2	アイヌ語地名	白老町	一般財団法人アイヌ民族博物館	企画展「風景と記憶の森へ～地形とアイヌ語地名から読み解く白老・登別～」	1,000,000
3	函館西部地区の街並み	函館市	NPO法人はこだて街なかプロジェクト・箱バル不動産	函館西部地区街並み保全活用プロジェクト(街並み再生プロジェクト、函館移住計画2016)	1,000,000
4	旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群	上士幌町	NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会	北海道遺産・コンクリートアーチ橋梁群 保全事業	500,000
5	札幌苗穂地区の工場・記念館群	札幌市	福山醸造株式会社、サッポロビール株式会社、雪印メグミルク株式会社	身近に感じる北海道遺産ツアー	400,000
6	モール温泉	音更町	十勝川温泉旅館協同組合	「モール温泉」をフル活用した新たな温泉拠点施設「ガーデンスパ十勝川温泉」内の案内板(サイン)及び広報用PRツール(パンフレット等)の作成	400,000
7	昭和新山国際雪合戦大会	壮瞥町	昭和新山国際雪合戦実行委員会	雪合戦ジュニア交流戦開催充実による未来の選手育成事業	400,000
8	増毛の歴史的建物群(駅前の歴史的建物群と増毛小学校)	増毛町	増毛町	ふるさと歴史通り景観セミナー及び旧増毛小学校校舎の保全・新たな活用へ	450,000
9	開拓使時代の洋風建築	札幌市	創成東開拓使プロジェクト	旧永山武四郎邸の歴史から札幌のまちづくりを考える参加型イベントの実施	400,000
10	小樽みなとと防波堤	小樽市	小樽商工会議所	シビック・プライドの醸成による小樽港の再生	300,000
11	札幌苗穂地区の工場・記念館群、北海道大学札幌農学校第2農場、開拓使時代の洋風建築、ジンギスカン、北海道のラーメン	札幌市	さっぽろサイクルラボ(一般社団法人シーニックバイウェイ支援センター、NPO法人エコ・モビリティサッポロ、NPO法人ゆうらん、NPO法人コンベンション札幌ネットワーク、サッポロバイクプロジェクト)	北海道遺産を巡る都市型サイクリングマップの作成事業	500,000
12	空知の炭鉱関連施設と生活文化	美瑛市	美瑛青年会議所	美瑛青年会議所認定・炭鉱(ヤマ)の記憶「こども大使」プロジェクト事業	500,000
13	函館西部地区の街並み、内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群、他	函館市	一般財団法人 道南歴史文化振興財団	地域価値創造イベント「JOMONだっけや(仮称)」	300,000
14	江別のれんが	江別市	NPO法人江別における持続可能なコミュニティのためのしくみ	北海道遺産『江別のれんが』を活用したシティブランディングおよび交流人口の拡大	400,000
15	霧多布湿原、空知の炭鉱関連施設と生活文化	浜中町、空知地域	主催：NPO法人奏楽、共催：NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト、NPO法人炭鉱の記憶推進事業団	北海道遺産でクラシックコンサートを！プロジェクト	450,000

1. 北の縄文文化遺跡群の魅力発信事業

- 実施主体：北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議（略称：北の縄文道民会議）
- 実施団体URL：<http://www.jomon-do.org/>（北の縄文道民会議HP）
- 助成額：1,000,000円

ー活動内容ー

●7月6日～10日に縄文夏まつりを札幌地下歩行空間で実施し、体験コーナーや座学、縄文太鼓の演奏などで縄文の理解度を深めた。2月6日～12日には縄文冬まつりを行い、雪まつり期間中に来訪した世界各国の観光客に周知、啓発活動を行いました。

両イベントで延べ約19,500人の来場者がありました。

11月に旭川で行われた、世界遺産登録推進フォーラムでは共催事業を行い、約100名の来場者に縄文文化の重要性について周知しました。



① サッポロビール
道産子感謝デー出展
(平成28年7月2～3日)
於：アリオ札幌



② 縄文夏まつり
(平成28年7月6日～10日)
於：札幌駅前地下歩行空間



③ 縄文遺跡群世界遺産
登録推進フォーラム
(平成28年11月20日)
於：旭川市大雪列外ホール

遺産の名称：
「内浦湾沿岸の
縄文文化遺跡群」
(函館市、伊達市など
内浦湾沿岸地域)



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91ヵ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期(7000年前)～中期(6000～4000年前)の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

2. 企画展「風景と記憶の森へ～地形とアイヌ語地名から読み解く白老・登別～」

- 実施主体：一般財団法人アイヌ民族博物館
- 実施団体URL：<http://www.ainu-museum.or.jp/>（アイヌ語地名HP）
- 助成額：1,000,000円

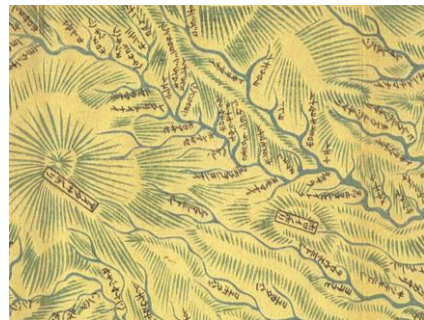
一活動内容（概要）一

- 白老町や近隣の登別市に焦点を当て、アイヌ語地名とそのアイヌ文化が生まれた背景を「地形」に着目し紹介する企画展を実施しました。

地元の昔の地形を3DCGで復元。白老町民、登別市民から募集した写真の展示も行いました。同企画展共同研究者の京都大学宇宙総合学研究ユニット特任教授・中野不士男先生と、国立民族学博物館名誉教授・小山修三先生をお招きし、企画展に合わせてシンポジウムを実施しました。



遺産の名称：
「アイヌ語地名」
（白老町）



北海道の地名の約8割はアイヌ語に由来するとされている。アイヌ語地名の多くは、知らない場所でも、その名から地形や位置づけが分かるものとなっている。現在は片仮名や漢字で表記され原音と異なる場合もあるが、本来はアイヌ民族の自然と調和した伝統的生活の中から歴史的に形成された。アイヌ文化の自然観などを理解する重要な手がかりとなっている。

3. 函館西部地区街並み保全活用プロジェクト

- 実施主体：NPO法人はこだて街なかプロジェクト・箱バル不動産（函館市）
- 実施団体URL：<http://hakobar.com/>（箱バル不動産HP）
<http://hakoreco.sakura.ne.jp/machinaka/>
（はこだて街なかプロジェクトHP）
- 助成額：1,000,000円

ー活動内容ー

【街並み再生プロジェクト】

●地元住民を対象に、函館・大黒通の歴史学習会を開き、まち歩きマップやはこだてのイメージワード選定、函館景観色を検討するワークショップを行い、地域にある建物の外観の軽微な復元・補修を行いました。

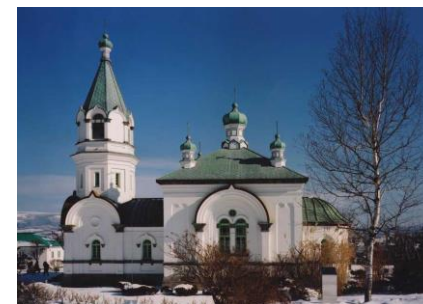


【函館移住計画2016】

●函館西部地区の伝統的建造物保存地区にある空き家を、学生ボランティアにも関わってもらいながらセルフリノベーションし、東京在住のモニターに移住体験をしてもらうことで、全国に街の魅力を発信しました。



遺産の名称：
「函館西部地区の街並み」
（函館市）



函館は安政6年、横浜、長崎とともに最初に開港し、近代日本の幕開けを告げた町であり、西欧文化に開かれた玄関口として栄えてきた。函館西部地区には、埠頭倉庫群、函館どつく（函館ドック）のような歴史的港湾施設、旧函館区公会堂やハリストス正教会復活聖堂に代表されるハイカラな洋風建築とともに、和洋をたくみに交えてデザインされた商家や住宅が建ち並ぶ。



北海道遺産
Hokkaido Heritage

4. 北海道遺産・コンクリートアーチ橋梁群 保全事業

- 実施主体：NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会
- 実施団体URL：<http://arch-bridge.sakura.ne.jp/>
(NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会HP)
- 助成額：500,000円

ー活動内容ー

●旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群は建設後、80年以上経過し、橋の各所に傷みが進行しています。今回は文化的価値が高く補修の緊急度が高い第三音更川橋梁に対して、表面にモルタルを塗布するなどの補修を行い、平成30年度に予定している本格的な補修に向け、今回の補修方法での確であるのか経過を検証しています。



遺産の名称：

「旧国鉄土幌線
コンクリートアーチ
橋梁群」（上士幌町）



昭和初期に十勝内陸の森林資源の運搬を目的に建設された第1級の鉄道遺産。地元住民を中心とした活動で保存が実現された。中でも季節によって見え隠れする「タウシュベツ川橋梁」、32mの大アーチを持つ「第三音更川橋梁」が有名。地元NPOの保存・利活用へ向けての活発な活動は全国的にも市民活動のモデルとされている。

5. 身近に感じる北海道遺産ツアー

■ 実施主体：雪印メグミルク株式会社

(札幌市/福山醸造株式会社、サッポロビール株式会社、雪印メグミルク株式会社3社連携)

■ 実施団体URL：<http://www.meg-snow.com/fun/factory/sapporo.html>

(雪印メグミルク酪農と乳の歴史館・札幌工場 施設概要ページ)

■ 助成額：400,000円

ー活動内容ー

●イオン北海道株式会社のチラシ告知および同社ホームページを通じて、10組20名を北海道遺産を感じるツアーにご招待しました。福山醸造醤油工場、雪印メグミルク酪農と乳の歴史館、サッポロビール博物館を見学し、サッポロビール園にてジンギスカンを味わいました。バス移動時および昼食時に北海道遺産の取り組みについて学んでいただき、北海道遺産とほっかいどう遺産W A O Nについて身近に感じていただくことができました。



身近に感じる
北海道遺産ツアー
ご招待キャンペーン

ツアー開催日 2016年11月22日

雪印メグミルク・サッポロビール・日本清酒の
製品を各500円以上のレシートで応募可能!!

抽選で10組20名をツアーにご招待!!

11月19日(木) 18時～19時 福山醸造株式会社 福山醸造醤油工場
11月20日(金) 18時～19時 雪印メグミルク株式会社 札幌工場
11月21日(土) 18時～19時 サッポロビール株式会社 札幌工場
11月22日(日) 18時～19時 サッポロビール園

遺産の名称：

「札幌苗穂地区の工場・
記念館群」(札幌市)



札幌市の創成川以東は、豊平川の伏流水や貨物輸送の利便性などによって明治期から「産業のまち」として栄え、今も福山醸造をはじめ、さまざまな工場や倉庫がひしめき、下町的な雰囲気を残している。苗穂駅近隣にある北海道鉄道技術館、サッポロビール博物館、酪農と乳の歴史館は内容も充実し、北海道の産業史を知る上でも貴重な記念館群を形成している。

6.「モール温泉」をフル活用した新たな温泉拠点施設「ガーデンスパ十勝川温泉」内の案内板(サイン)及び広報用PRツール(パンフレット等)の作成

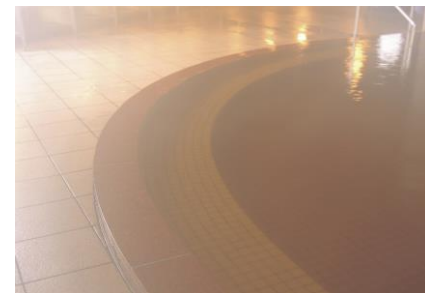
- 実施主体：十勝川温泉旅館協同組合（音更町）
- 実施団体URL：<http://www.tokachigawa.jp/>（ガーデンスパ十勝川温泉HP）
- 助成額：400,000円

ー活動内容ー

●モール温泉の良さを広く周知し、道内外及び外国人のより多くの集客向上を図るため、官民連携（音更町と十勝川温泉協同組合）で事業化された温浴施設「ガーデンスパ十勝川温泉」のPRツールとして、モール温泉の魅力を発信するパンフレット等を作成しました。施設内の統一ロゴ「フラッグ」や「木製サイン」「動物の木製」も制作しました。



遺産の名称：
「モール温泉」
（音更町）



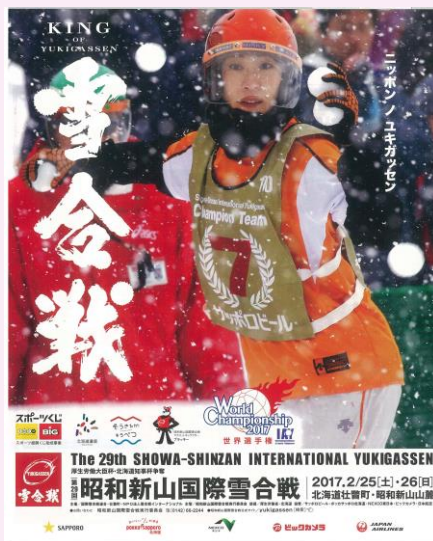
モール温泉は、泥炭を通して湧出するもので独特の黒っぽい湯が特徴。日本では十勝に代表して見られるほか、石狩平野や豊富町でも湧出している。呼び名のモールは「Moor」のドイツ読みになむもので、泥炭のことを意味する。主成分は植物性腐食質で、鉍物成分より植物成分が多いのが他の温泉との違い。また、熱源は地熱に加えて、地下での植物の堆積物による発酵熱と考えられている。

7. 雪合戦ジュニア交流戦開催充実による未来の選手育成事業

- 実施主体：昭和新山国際雪合戦実行委員会（壮瞥町）
- 実施団体URL：<http://www.yukigassen.jp/>
（昭和新山国際雪合戦実行委員会 公式ウェブサイト）
- 助成額：400,000円

一活動内容一

●参加者に本来の雪合戦が持つ「雪に親しむ」こと感じてもらい、次世代へ雪合戦を継承するための子どもたちの大会参加促進や、若年世代の大会運営参加に向けた取り組みとして、ジュニアおよびその関係者限定の休憩場所「WAONテント」の設置や、ジュニア用雪球製造機の確保、大学生による運営協力などを実施しました。受入環境整備が印象付けられたこともあり、前年7チームしか参加のなかったジュニア交流戦において9チームが参加しました。



遺産の名称：
「昭和新山国際雪合戦
大会」（壮瞥町）



子どもの遊びを、大人が真剣に競う冬のスポーツとして確立したことは、雪国・北海道にふさわしい新しい文化といえる。ルール・用具の開発から、資金集め、企画運営まで地域住民が主体となって進められている。1989年に始まった大会の歴史の中で、まちの若者たちの情熱とアイデアは海を渡り、今では北欧など海外でも「YUKIGASSEN」が開かれている。

8. ふるさと歴史通り景観セミナー及び旧増毛小学校校舎の保全・新たな活用へ

- 実施主体：増毛町
- 実施団体URL：<http://www.town.mashike.hokkaido.jp/>（増毛町HP）
- 助成額：450,000円

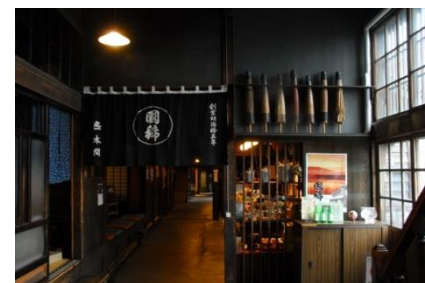
一活動内容一

●増毛駅を起点とする駅前の歴史的建造物群（ふるさと歴史通り）の景観を維持し更に魅力あるものにするために、地域住民、駅前通りにある飲食店、増毛町が一体となって景観について学ぶ機会を設けるセミナーを開催しました。まちの資源を再確認し、どう活かしていくのかを地域住民と考えるきっかけになりました。旧増毛小学校では、住民を対象とした一斉清掃を行うことで、住民の北海道遺産の認知度の向上やふるさと納税での保存・活用に向けたPRを行いました。



遺産の名称：

「増毛の歴史的建物群
（駅前の歴史的建物群と
増毛小学校）」（増毛町）



留萌線の終着駅「増毛」。駅前のふるさと歴史通りには、明治中期に建てられた国重要文化財「旧商家丸一本間家」を始め、日本海の風雪にも耐えた石造りや木造の建物が並ぶ。高台にある旧増毛小学校は、戦前に建築され平成23年度まで使用されていた木造校舎。現在はそのまま保存され、そのたたずまいは古き佳き時代を感じさせる。

9. 旧永山武四郎邸の歴史から札幌のまちづくりを考える参加型イベントの実施

- 実施主体：創成東開拓使プロジェクト（札幌市）
- 実施団体URL：<https://www.facebook.com/souseihigashi.kaitakushi/>
（創成東開拓使プロジェクトfacebookページ）
- 助成額：400,000円

一活動内容一

●地域の原風景として親しまれている旧永山邸の改修工事休館中、地域住民と、文化財・建築・まちづくりに興味のある方を対象に、参加型のイベントやワークショップを通して札幌のまちづくりについて触れながら、創成東地区・改修後の永山邸との関わり方を考える事業を展開しました。

ワークショップの成果としてまちあるきマップを作成しました。



遺産の名称：
「開拓使時代の洋風建築
（時計台、豊平館、清華亭
など）」（札幌市）



札幌市時計台や豊平館は、北海道開拓の初政をになった開拓使の事績を伝え、文明開化の先端をいった北海道の気風をよく表している。時計台は札幌のシンボルであり、近年は2階ホールが音楽会などの場として親しまれている。明治初期の洋風建築は和洋折衷型も含め、工業局庁舎、清華亭、永山邸、札幌農学校の農場建築などが遺されている。

10. シビック・プライドの醸成による小樽港の再生

- 実施主体：小樽商工会議所（小樽市）
- 実施団体URL：<https://www.city.otaru.lg.jp/>（小樽市HP）
- 助成額：300,000円

ー活動内容ー

●小樽港第3号ふ頭基部において、「小樽みなとと防波堤」をテーマとした写真展とプロジェクションマッピングを実施しました。また、にぎわい創出を目的とした社会実証実験として、港湾貨物輸送の象徴といえるコンテナを改造した「カフェ」や「バル」、「雑貨販売・アート作品の展示」を設置し、港でグルメやショッピングを楽しみながら、市民や観光客がにぎわい交流できる場を創出しました。



遺産の名称：
「小樽みなとと防波堤」
（小樽市）



「港湾工学の父」廣井勇により建設された北防波堤は、セイロン（現スリランカ）のコロンボ港防波堤を参考にし、独特の傾斜ブロック工法を採用した日本初の外洋防波堤。ケーソン工法を取り入れた島防波堤とともに、今も現役で機能している。防波堤に守られた小樽のみなとは北海道移住の玄関口となり、また物流拠点、貿易港として商都・小樽の繁栄を支えている。

11. 北海道遺産を巡る都市型サイクリングマップの作成事業

■ 実施主体：さっぽろサイクルラボ

（一般社団法人シーニックバイウェイ支援センター、 NPO法人ゆうらん、
NPO法人エコ・モビリティサッポロ、NPO法人コンベンション札幌ネットワーク、
サッポロバイクプロジェクト）（札幌市）

■ 実施団体URL：<http://www.sapporocyclelabo.jp/> （さっぽろサイクルラボHP）

■ 助成額：500,000円

ー活動内容ー

●「札幌苗穂地区の工場・記念館群」や「開拓使時代の洋風建築」、「ジンギスカン」や「サケ（サーモン）」など、北海道らしい食を味わいながら北海道遺産の施設を自転車等で巡ることができる札幌市内を中心とした都市型サイクリングマップを作成しました。マップ作成に向けて、立ち寄り可能な施設等の地域資源の洗い出しとルート選定のための自転車の走行環境について調査&試走を行い、作成したマップは、さっぽろサイクルラボのWebサイトに公開しました。



遺産の名称：

「北海道のラーメン」
（北海道各地）



ラーメンの起源は諸説あるが、戦後急速に北海道民の食生活の中に定着し、寒冷な気候から、コクがあり濃い味のラーメンが、北海道の代表的な食文化として発展した。ラーメンは、北海道の観光資源としても欠かせない存在であり、札幌・函館・旭川・釧路など、地域ごとに特色を持ったラーメンが脚光を浴び、ご当地ラーメンブームの火付け役となった。

12. 美唄青年会議所認定・炭鉱(ヤマ)の記憶「こども大使」プロジェクト事業

- 実施主体：美唄青年会議所（美唄市）
- 実施団体URL：<http://www.city.bibai.hokkaido.jp/>（美唄市HP）
- 助成額：500,000円

一活動内容一

●美唄青年会議所が、美唄の子どもたちを対象として開催している青少年の健全育成を目的とした研修事業「ジュニアクトクラブ（JAC）」の参加者及び市内小中学生児童会徒役員）を対象として、美唄の炭鉱の歴史を学び、炭鉱遺産について学習した内容や将来の利活用について壁新聞などをつくるワークショップを開催しました。子ども大使が北海道遺産を紹介するというコンセプトでパンフレットも制作。壁新聞に盛り込んだ北海道遺産に関する「将来への夢」を子ども大使から美唄市長へ提言書として提出しました。



遺産の名称：
「空知の炭鉱関連施設と生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

13. 地域価値創造イベント「JOMONだっけや(仮称)」

- 実施主体：一般財団法人 道南歴史文化振興財団（函館市）
- 実施団体URL：<http://dounan-rekibun.jp/>（道南歴史文化振興財団HP）
- 助成額：300,000円

一活動内容一

●地域住民を対象とした縄文の歴史・文化の啓蒙と世界遺産登録に向けた機運の醸成を図るとともに、地域の活力創出に向けた縄文文化への新たなアプローチ方法の可能性を探るため、縄文文化の「こころ」をひもとく様々なイベントを開催しました。メインイベントでは、函館市縄文文化交流センターで、学芸員から遺跡発掘調査やセンター内の解説を受けたり、食やアートのパフォーマンスなどを実施し2日間を通じて「縄文人のこころを感じる祭り」を実現することができました。



遺産の名称：
「内浦湾沿岸の
縄文文化遺跡群」
(函館市、伊達市など
内浦湾沿岸地域)



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91ヵ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

14. 北海道遺産『江別のれんが』を活用したシティブランディングおよび交流人口の拡大

- 実施主体：NPO法人江別における持続可能なコモنزのためのしくみ（江別市）
- 実施団体URL：[https://www.facebook.com/ebetsu.commoners/](https://www.facebook.com/ebetsu.common/)
（江別における持続可能なコモنزのためのしくみfacebookページ）
- 助成額：400,000円

ー活動内容ー

●北海道遺産「江別のれんが」を活用したシティブランディングおよび、交流人口・関係人口・定住人口の拡大を目的とし、北海道遺産である「江別のれんが」の魅力を生かした映像を制作。江別市の協力のもと、米澤煉瓦の米澤社長のインタビューを収録し、米澤煉瓦さんやレンガ建築を撮影しました。

動画は、当法人FBページや江別市シティプロモート推進協議会FBページ、Youtubeで公開しています。



遺産の名称：
「江別のれんが」
（江別市）



開拓使は内陸開発建築資材にれんがを奨励し、道内8地区17の工場で造られたれんがによって、北海道庁赤れんが庁舎をはじめ多くの名建築が生まれた。大正以降、全道一の陶土地帯である江別の野幌周辺へとれんが製造の中心が移り、現在も3つの工場が稼働している。市内には小学校やサイロ、民家など400棟以上のれんが建築物が美しい姿で現存している。

15. 北海道遺産でクラシックコンサートを！プロジェクト

■ 実施主体：主催/NPO法人奏楽

共催/NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト（浜中町）

NPO法人炭鉱の記憶推進事業団北海道（空知地域）

■ 実施団体URL：<https://sora-npo.jimdo.com/>

（アンサンブルグループ奏楽HP）

■ 助成額：450,000円

ー活動内容ー

●北海道遺産の認知向上を目的として炭鉱の記憶マネジメントセンター（岩見沢市）およびNPO法人霧多布湿原ナショナルトラストの活動拠点である旧琵琶セ小学校の2か所にてクラシックコンサートを開催しました。

岩見沢のコンサートでは、歴史ある建物で演奏を行い、北海道遺産とクラシック音楽の歴史という共通性を見出すことができました。霧多布湿原のコンサートでは、雄大な大自然をバックに演奏を聴いていただくことができ、ここにしかない自然の貴重さを実感することができました。



遺産の名称：
「霧多布湿原」
（浜中町）



湿原景観を構成するすべての要素が一望できる学術的にも貴重な湿原。一部は「霧多布湿原泥炭地形形成植物群落」として大正11年に天然記念物に指定され、数百種の高山植物が自生している。春から秋にかけて咲く花々の美しさを楽しみ、タンチョウや白鳥など百種の野鳥も観察できる。地域では湿原保全のナショナルトラスト活動が積極的に展開されている。